

令和 7 年 6 月 25 日現在

機関番号：32515

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2024

課題番号：21K10755

研究課題名（和文）Withコロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動再構築支援ツールの開発

研究課題名（英文）To support rebuild disease management behavior for patients with cardiovascular disease in post-covid (19) society

研究代表者

岡田 彩子 (Okada, Ayako)

東京情報大学・看護学部・教授

研究者番号：10425449

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、本研究は、With コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動の実態把握とそれに基づいた新たな看護支援ツールの開発を目的とした研究で、文献レビューとインタビュー調査で構成されていた。文献レビューから疾患支援介入の提供形態が、電話やオンラインに変化した傾向を示した。Postコロナ社会に移行後、心臓疾患患者の3名のインタビュー調査からは、感染対策でマスクの着用と手洗いうがいは、感染症終息後も習慣になったことは、3名の対象で共通した行動であったが、同じ疾患であっても体験する症状や疾患管理の再構築の仕方も異なることも明らかになったことから、個別性重視の支援ツールの必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果は、社会のシステム変化に伴い、循環器疾患患者が、感染症拡大前、中、後の生活及び疾患管理の様相を明らかにした。

文献レビューでは、コロナ感染症拡大前及び拡大中、介入の提供スタイル変更が示されたが、コロナ感染症終息後に行った心疾患患者のインタビューからは、疾患は同じでも患者個々の生活体験は異なり、また症状も異なることから、疾患管理方法や再構築の方法も個々の生活に準拠していた。疾患管理のパターンを抽出という一般化を見出すと同時に、テイラーメイドな支援の側面を併せ持つ支援に必要性が示唆された。これは今後さらに対象の多様性が広がる中で、意義深い知見とあると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to explore the disease management behaviors of patients with cardiovascular diseases in a "With-COVID" society and to develop new nursing support tools based on these findings. The research consisted of a literature review and interviews. The literature review revealed a trend toward a shift in the format of disease management interventions from in-person to non-face-to-face methods such as telephone and online support since the onset of the pandemic. The interviews with three patients with cardiovascular disease in the post-COVID society showed that infection prevention behaviors such as wearing masks and handwashing/gargling had become habitual, even after the pandemic had subsided. It was found that, despite having the same disease, patients experienced different symptoms and reconstructed their disease management in diverse ways. This suggests the necessity of developing individualized nursing support tools tailored to each patient's unique experiences and needs.

研究分野：循環器看護学

キーワード：疾患管理行動 再構築 ポストコロナ社会 心（血管）疾患

1. 研究開始当初の背景

我が国の虚血性心疾患（心血管疾患）の有病率は増加しており、心血管（狭心症・心筋梗塞）で死亡する人は年間 20 万人を超え、死因の第 2 位となっている（厚生労働省：令和元年人口動態統計，2020）。更に国民医療費が年々増加する中で、傷病分類別医科診療医療費では、循環器系疾患は 6 兆 782 億円（19.77%）と最も多く、全体の約 5 分の 1 を占めている。さらに 65 歳以上では循環器系の疾患にかかる医療費は男女共に最も多く、全体の四分の一を占めている（厚生労働省，2017）。

循環器系疾患は、生活習慣との関連が非常に深く、医療費節減には、生活習慣是正に対する介入が最重要であり、主要な循環器看護実践と考えられている（American College of Cardiology, & American Nurse Association, 2008）。循環器看護においても生活習慣是正に向けた支援の重要性、方法は看護基礎教育にも含まれるほど普及してきている（岡田，2020）。

2020 年初めから、新型コロナウイルス感染症が拡大し、これまでの社会生活に様々な行動制限がされ、社会活動や生活様式に大きな変化をもたらした。そのような社会の中で、心血管疾患患者も同様に影響を受け、自身の疾患管理を社会の変化の中で継続していくことは、とても困難な状況になることが予測された。感染症の終息の目途が立たず、with コロナ社会に移行していく中で、急性期医療は、新型コロナウイルス感染症の対応で受診制限や受診形態の変更を余儀なくされ、心血管疾患患者は、自身の感染のリスクを考慮して、従来の定期受診の方法の変更や、受診控えにより疾患管理の難しさが懸念されていた。

さらに、新型コロナウイルス感染症の重症化のリスク因子として、高齢者、基礎疾患（心血管疾患、糖尿病、慢性呼吸器疾患、慢性腎臓病等）が指摘されており、さらに、新型コロナウイルス感染症の合併症として、血栓症を合併する可能性が指摘されている¹⁾。

早期に感染症の終息も目途が立たず、With コロナ社会に移行する社会において、心血管疾患患者は、持病の病状の悪化の早期発見・早期治療は循環器病の予防に加えて、新型コロナウイルス感染症による重症化の予防の必要になってくる。

そのような中、新型コロナウイルス感染症のさらなる感染拡大の局面も見据えて、心血管疾患の患者に対する医療の確保のみならず、予防という観点から、新しい With コロナ社会の中で実践できる疾患管理行動の再構築にむけた支援は、喫緊の課題であると考えた。

以上のことから、本研究は、with コロナ社会における心血管疾患患者の生活様式と疾患管理行動の疾患管理行動の実態把握と課題を明らかにし、それに基づいた「with コロナ社会における冠血管疾患患者の疾患管理再構築看護支援ツール」を開発することを目的とした。

1) 令和 2 (2020) 年度「新型コロナウイルス感染症診療の手引き第 2.2 版」(厚生労働行政推進調査事業費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)

2. 研究の目的

本研究は、心血管疾患の患者に対する医療提供の確保と、感染予防、心血管疾患の再発予防という観点から、新しい with コロナ社会の中で実践できる患者個々の疾患管理行動の再構築にむけた支援、その提供体制の整備を進める示唆を得るために、1) with コロナ社会における心血管疾患患者の生活様式と疾患管理行動の疾患管理行動の実態把握と課題を明らかにし、2) それに基づいた「with コロナ社会における冠血管疾患患者の疾患管理再構築看護支援ツール」を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は 3 つのパートから構成されており、研究 1 は with コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動と社会・心理的因子の現状を明らかにすることを目的とした国内外の文献レビューをし、そのうえで心血管疾患患者を対象とした疾患管理の現状や再構築の困難さの聞き取り調査の対象とインタビュー調査を実施（研究 1）し、方法を再検討し、研究 2 および研究 3 の結果を踏まえ、心血管疾患患者の疾患管理行動再構築の支援指針（案）と「with コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動再構築看護支援ツール」を検討することとした。

研究 1 においては、With コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動と社会・心理的因子の現状を明らかにする：疾患管理行動（生活、受診行動）、心身の状況、ソーシャルサポート、疾患管理行動の自己効力感等の国内外における最新の知見レビューをする。

研究 2 においては、With コロナ社会での生活者としての実体験を把握する：現在実施している疾患管理の現状や再構築の困難さから、課題を明らかにする（現在行っている疾患管理行動に関する面談調査）内容分析によりそれぞれの変化や再構築等の移行のパターンを抽出し、内的妥当性、外的妥当性を検証することとした。

研究 3 においては、研究 1 と研究 2 の結果を統合し、心血管疾患患者の疾患管理行動再構築の支援指針（案）および、それを基に with コロナ社会における新たな心血管疾患患者の疾患管理再構築看護支援に向けたツールの開発をめざした。

4. 研究成果

本研究は、With コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動の実態把握とそれに基づいた新たな看護支援ツールの開発を目的であった。

コロナ感染症拡大後の社会生活やそのシステムが激変した中で、研究 では、with コロナ社会における心血管疾患患者の疾患管理行動と社会・心理的因子の現状を明らかにすることを目的に国内外の最新の知見のレビューを行った。データベースは、PubMed, CINAHL を使用し、コロナ感染症拡大後の 2020 年から 2022 に公表された COVID-19 感染症拡大後の内容の文献を対象に、循環器疾患患者の 2 次予防に焦点をあて、循環器看護の介入の動向について検討し、with コロナ社会における看護介入のタイプと手段の概況を明らかにした。

Figure1. Flow diagram of study selection by PRISMA(2020)

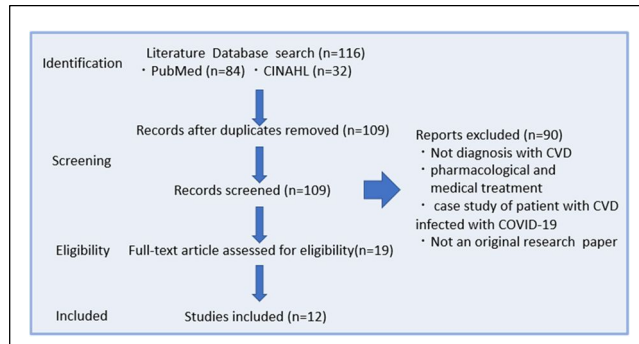


Figure 1 にあるように、トータル 116 件の文献を抽出され、最終的に 12 件の文献と対象に検討を行った。出版された国は、日本、イラン、オーストラリア、イタリア、米国、インドネシア、シンガポール、ブラジルであった。心臓リハビリテーションプログラムに参加している対象の疾患管理支援をどのような実施しているかについて、双方向にコミュニケーションが可能な電話やオンライン通話を使用しているものが 5 件、テキストメッセージやアプリ、その他医療従事者との双方向のコミュニケーションを行わない手段を使用しているものが 7 件であった。

また介入のアウトカムとして、モニタリングしている指標は、身体的な項目では、血行動態、運動時の苦しさ、体重、BMI、身体的活状況、心理的な要因、血中脂質、血圧、エルゴメータの負荷しけの結果等を活用していた。対象の行動については、心臓リハビリテーションプログラムの参加状況、日常生活の中での身体活動度、内服の継続状況、喫煙行動、およびセルフケア実施状況であった。以上から疾患管理の介入は、対面のオンサイトでの提供から、SNS や、動画、テキストメッセージシフトしている傾向があった。

もう 1 件のレビューは、看護介入の理論的枠組みについての概観をまとめた。対象の疾患管理行動の理論的輪組として多く用いられた理論は、Self-efficacy theory で、それは with コロナ社会に特化したものではなかった。

研究 では、心血管疾患患者に対する面談調査により、現在実施している疾患管理の現状や再構築の困難さを聞き取り、コロナ感染症拡大後に生じた生活者としての患者の疾患管理における実践課題を明らかにした。2023 年 5 月に感染症の分類が変更になり、with コロナから Post コロナ社会に移行した中で、心臓疾患患者の疾患管理の再構築の体験を明らかにした。コロナ感染症拡大前から心疾患に罹患し、現在継続して、自宅にて心疾患の疾患管理を継続している、状態の安定している 3 名を対象に、インタビュー調査を行った。

調査内容は、コロナ感染症拡大前、拡大中、そしてコロナ感染症の分類変更後の現在の生活と疾患管理の変化、具体的には日常生活の中での症状や体調管理の様子、仕事（働き方）や家族との関係や家族から支援、受診の方法や調子が悪くなった時に対処についてであった。コロナ感染症拡大前は、心疾患罹患後の経過と療養生活の様子、コロナ感染症拡大中は、心疾患を持ちながらコロナ感染症拡大社会で生活する際に、社会の変化から受けた影響やその対処についての様々な変化や困難さについて、そして感染症の分類が変更になった後の生活と、コロナ感染症拡大前と何が異なるか、について聴取された。

対象の病状は、新型コロナウイルス感染症拡大前から心疾患の疾患管理を行っていた先天性心疾患対象、心臓の外科手術を受けた経験のある 3 名をした。

感染症拡大前と終息後の自身の行動変化として共通していたことは、マスクの着用が習慣化および手洗いうがいの徹底がより強化されたことであった。自分のおかれている環境や状況（不特定多数の人が集まる場所、公共の交通機関を使用する際等）に応じて意図的にマスクの着用するようになったことだった。マスクをすると息苦しいと感じることがあって、感染症（感冒等を含め）から自身の調子を崩してしまうパターンは自身自身で認知しており、感染から病状が悪化してしまうことを懸念して、感染症の分類が変更後もマスクの着用が習慣化していることであった。

また感染症拡大中の定期受診については、定期的な検査や、患者自身が受診ができるように、自身の身体の状態・受診したい状況であることを医療従事者に伝え、調整したことで3名とも対面で受診を行っていた。この点は、文献検討では遠隔診療やフォローアップに着目していたが、今後は心疾患の経過と重症度にそった支援が必要であることが示唆された。

その他、疾患管理行動だけではなく、コロナ感染症拡大時期に、就業場所の変更があった対象については、それに関連する心身のストレスと生活状況の変化が生じたケースもあったことから、一般的な疾患管理の項目側面だけではなく、生活者としての個々の対象把握と支援の必要性が示唆された。一般化のためのパターンを見出すことと同時に個々のテーラーメイドな疾患管理の側面を併せ持つ支援の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Mari, Shinohara, RN, MSN., Tatsuto, Kawabata, RN, MSN., Hanae, Miura, RN, PhD., Kiyoko, Abe, RN, PhD., Ayako, Okada, RN, PhD.
2. 発表標題 Theoretical framework for nursing intervention in behavior change for patients with cardiovascular diseases in the society with COVID-19
3. 学会等名 26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tatsuto, Kawabata, RN, MSN., Mari, Shinohara, RN, MSN., Kiyoko, Abe, RN, PhD., Hanae, Miura, RN, PhD., Ayako, Okada, RN, PhD.,
2. 発表標題 The trend of nursing intervention for patients with cardiovascular diseases as a secondary prevention in the society with COVID-19
3. 学会等名 26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayako, OKADA, RN, PhD.
2. 発表標題 Life expectancy and healthy life expectancy of Thai and Japan: prevention of heart disease in older adults
3. 学会等名 7th international conference in Cardiovascular-Thoracic Nursing (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ayako, OKADA, RN, PhD.
2. 発表標題 Global trends of CVD and Thoracic Healthcare and update CVD medical treatment and care
3. 学会等名 Thai Cardiovascular-Thoracic Nurses Association 8th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ayako, OKADA, RN, PhD.
2. 発表標題 Clinical Nursing Practice Guidelines (CNPg) to cardiovascular disease (CVD) and Thoracic Nursing.
3. 学会等名 Thai Cardiovascular-Thoracic Nurses Association 8th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Ayako, OKADA, RN, PhD.
2. 発表標題 Innovation in Cardiovascular Nursing.
3. 学会等名 Thai Cardiovascular-Thoracic Nurses Association 8th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

岡田彩子(2024年)編著. 急性増悪・再入院を防ぐための慢性心不全患者の看護とセルフケア支援, web版書籍、アルケア株式会社の運営する医療・ケア情報サイト「ディアケア」pp.3 - 52 .

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	篠原 真里 (Shinohara Mari) (10848518)	日本赤十字看護大学・さいたま看護学部・助教 (32693)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小島 善和 (Kojima Yoshukazu) (60215259)	東京情報大学・看護学部・教授 (32515)	
研究分担者	川端 龍人 (Kawabata Tatsuto) (20848890)	日本赤十字看護大学・さいたま看護学部・助教 (32693)	
研究分担者	山内 英樹 (Yamauchi Hideki) (60751154)	東京情報大学・看護学部・教授 (32515)	
研究分担者	安部 陽子 (Abe Kiyoko) (30629449)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授 (32693)	
研究分担者	児玉 悠希 (Kodama Yuki) (50769578)	東京情報大学・看護学部・准教授 (32515)	
研究分担者	三浦 英恵 (Miura Hanae) (40588860)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授 (32693)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------